

地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな「実践型教育プログラム」の開発：平成23年度報告書

著者	土岐 篤史, 上原 美穂, 川口 智美
ファイル(説明)	[奥付] 資料集 おわりに 第5章 第4章 第3章 第2章 第1章 はじめに 巻頭言 目次 [表紙・標題紙]
URL	http://hdl.handle.net/10232/17378

はじめに

プロジェクト統括
臨床心理学研究科長 安部 恒久

臨床心理学研究科では、鹿児島大学の「進取の気風」を現す取り組みとして、平成22年度からの3年計画で「地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな『実践型教育プログラム』の開発」と題した教育改革を進めているところです。

この「実践型教育プログラム」は、相談者に来談していただく従来のかたちではなく、私たちのほうから地域に出かけていき、相談を受けるというデリバリー方式と呼ぶ新しい地域支援の試みです。このような地域支援のアプローチを、教員個人のボランティア・サービスとしてではなく、臨床心理士という高度な専門職養成におけるプロフェッショナルの教育課程の課題として、位置づけようと模索しているところです。

ところで、平成23年3月11日に起きた東日本大震災は、地域での困難をどのように支援することができるのかという私たちのプロジェクトのテーマに直結した出来事であり、地域支援に関わることができる高い専門的スキルをもった専門家の養成がいかに大切であり、必要とされているかを改めて実感した出来事でした。

鹿児島大学では、学長始め教職員が支援に全力を尽くすなか、本研究科でも教員1名及び学生2名がボランティアとして被災者の支援に東北の地に数度にわたり赴き、微力を尽くした次第です。

平成23年度報告書では、第1章及び第2章において、23年度の事業概要と伊佐市・霧島市・枕崎市・鹿児島市など地域に出向いての講演会をとおしての各地域における支援活動の実際を報告しています。とくに、第3章では、昨年度にはなかった新しい試みとして、ネットワークシステムの試験的運用について紹介し「模擬事例検討会の試み」を報告しています。

地域の専門家がひとつの事例をどのように検討し連携することができるのかを、ネットワークをとおして学生諸君が学ぶシステムの開発です。検討会後の感想では、学生諸君は専門家同士の白熱した議論に圧倒されたとの感想もありましたが、多くのことを学ぶことができたこと好評でした。

第4章は、教育改革に向けてのアンケート調査の結果を報告しており、第5章では、支援活動の評価とともに、アンケートの結果を受けて、今後の課題を報告しています。

本プロジェクトは、平成24年度が取組の最終年度となりますが、全国164の臨床心理士養成大学院のスタンダードモデルを構築するためにも、読者の皆様には、忌憚のないご意見をお寄せいただければ有難く存じます。